シリーズ掲載

言語活動の充実に向けたはじめの一歩

「学びがいのある魅力的な学習課題づくり」Vol. 3

小学校歴史の授業づくりのヒント ～肖像画提示の工夫～

《小学校６年　武士の世の中へ「源頼朝と鎌倉幕府」を例に》

今回は、子どもたちに課題意識を強く持たせる肖像画提示の工夫について紹介します。

この単元のねらいは、

> 鎌倉幕府と武士は、土地を媒介としてご恩と奉公の関係で強く結び付き、武士による全国支配の基盤ができた。

ことをとらえさせるものです。

ここで大切なのは、<u>鎌倉幕府の勢力の基盤であった幕府と御家人との関係に子どもたちの関心が向くように課題づくりをし、学習を展開していく</u>ことです。

源頼朝

７０㎝のテープ

１０㎝のテープ

平清盛

【平氏に関する既習事項】
- 「平氏でないものは人でない」
- 自分の娘を天皇と結婚させる。
- 高い地位を独り占めする。
- 貴族的な生活をする。
- 荘園を集める。

まず、平清盛の肖像画を提示し、上に示した平氏に関する既習事項を確認します。

次に、源頼朝の肖像画を提示します。そして、平氏と源氏それぞれの時代の長さを、１０㎝と７０㎝のテープにより視覚的にとらえさせます。テープの長さの比較により、

「鎌倉幕府が約１４０年も続いたのはなぜか」

という学習課題をつくります。

導入におけるこのような課題づくりを通して、

「平氏とは違う政治のしかたをしたのではないか」

という予想や課題追究の見通しが持てるようになります。つまり、平氏の政治と鎌倉幕府の政治の違いに目を向けさせるようにします。このような教師の働きかけにより、平氏と源氏の政治を比較しながら鎌倉幕府と武士の「ご恩と奉公」の関係についての理解を深めていくことができます。

★まとめ★

二つの肖像画の提示の仕方を工夫することにより、事象間の相違点に着目し、それぞれの人物とその働きについて「比較して考える」学習課題をつくることができます。